平成 21 年 12 月 13 日

「植物・生き物の冬の過ごし方」

四季の森里山研究会
武田・渡部・北村・尾崎

いよいよ本格的な冬を迎えます。私達人間は冬の間はセーターを着たりコートを着て暖かくして、寒さに耐えられるように対策をしています。
植物や動物は冬の寒い時期はどのようにしているのでしょうか。それぞれの寒さ対策と春を迎える準備について、自然の不思議を観察していきます。

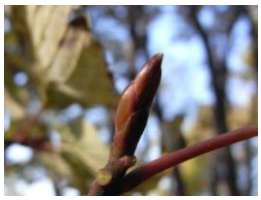
Ⅰ．植物編

木々は冬の寒さと、春を迎える気候変化に耐えるため、**冬芽**(ﾌｭﾒ)には色々な工夫がされている。

１．冬芽の種類

・鱗芽(ﾘﾝｶﾞ) ・・・・若葉の元となる部分が芽鱗(ｶﾞﾘﾝ)と呼ばれる物で覆われている。
魚の鱗のような物、毛皮に包まれたような物、硬い皮のようなものもある。

ﾐｽﾞｷ、ﾆｼｷｷﾞ、ﾔﾏｸﾞﾜ、ｺﾌﾞｼ、ｺﾅﾗ、ｼﾗｶｼ、ｶﾞﾏｽﾞﾐｻﾝｼｭ、など


ﾐｽﾞｷ

ｺﾅﾗ

ｺﾌﾞｼ

・裸芽(ﾗｶﾞ)・・・・・・若葉の元となる部分が芽鱗(ｶﾞﾘﾝ)に覆われてなくて、毛などが生えているものもある。

ｱｼﾞｻｲ、ｱｶﾒｶﾞｼﾜ、ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ、など

ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ

・隠芽(ｲﾝｶﾞ)・・・・・・冬芽が葉痕(ﾖｳｺﾝ)や樹皮の中に隠れているもの。

ﾆｾｱｶｼｱ、ﾈﾑﾉｷ、など

２．葉痕(ﾖｳｺﾝ)

冬芽の観察をしながら、葉痕(ﾖｳｺﾝ)（葉の落ちたあと）の観察もしてみよう。
動物の顔に似たようなものもある。

Ⅱ．動物編

四季の森公園で見られる動物に北口広場前の池にカメがいましたが、どこへ消えたのでしょうか。小動物の姿が見えませんので、虫の越冬に注目してみましょう。

１．卵で越冬する虫

・オオカマキリ（カマキリ科）などの仲間

「卵のう」という泡(ｱﾜ)のような塊(ｶﾀﾏﾘ)に包まれた卵で越冬する。

「卵のう」は木の枝につけられ、雪国ではこの枝が雪に埋まらない高さにつくため、その年の雪の多さを占うバロメーターになる、と言われている。

・トノサマバッタ（バッタ科）などの仲間

土の中に固めて卵を生み、卵で越冬する。

２．幼虫で越冬する虫

・モンキチョウ（シロチョウ科）

蛹(ｻﾅｷﾞ)で越冬する場合もあるが、２～３齢の幼虫が越冬する。食草はマメ科

・コガネムシ（コガネムシ科）などの仲間

幼虫の期間は１～２年であり、幼虫で越冬する。食草として、草や木の根を食べる。

３．蛹(ｻﾅｷﾞ)で越冬する虫

・アゲハ（アゲハチョウ科）などの仲間

木の枝で越冬したサナギは、４月頃に羽化を始める。

・モンシロチョウ（シロチョウ科）

枯れ草の中などで越冬したサナギは、４月頃に羽化を始める。

緑色と褐色のものがある。

４．成虫で越冬する虫

・テントウムシ（テントウムシ科）などの仲間

落ち葉の下や石の下などで、集団で越冬する。

・アシナガバチ（スズメバチ科）などの仲間

越冬するのは女王蜂だけで、春になると１匹で巣を作り、産卵して幼虫を育てる。

５．その他

・クモ

種類によって、幼虫、亜成虫、成虫とバラバラであるが、風雨の当たらない場所で越冬する。冬でも暖かい日には活動しているクモもいる。